

一般質問

# 区政をきく

## (一般質問)

平成26年第4回定例会では、区政全般について、10名の議員が一般質問を行いました。以下、概要をお知らせします。



かり保育を実施している。5 創業支援資金制度がある。6 オフィススペースなど場の提供もしている。7 共同利用型のシェアオフィス等があり、起業後の企業PR等の場としての活用も予定している。

### 児童虐待について

1 区の要保護児童対策地域協議会の仕組みや開催状況等は。2 児童相談所との協力・連携はどのようになっているのか。3 厚生労働省が実施した居住実態が把握できない児童に関する調査について7区の調査結果は。4 どのように実態把握をしたのか。5 居住実態が把握できない児童への今後の対応は。6 虐待を予防するため、どのような取り組みを進めるのか。

### 子ども未来事業部長

## 女性が活躍できる社会について



吉田あつみ 議員(無品)

1 世界で120位の日本の起業環境を、区はどう受けとめているのか。2 ウーマンズビジネス起業家の現状は。3 品川区

の女性起業家の特徴は。4 武蔵小山創業支援センターの7 起業支援の取り組みは。5 子育て中の起業家を応援するシステムはあるのか。6 女性起業家への7 起業資金の支援は。8 起業に当たり、場所に対する考えなどは。9 6月にオープン予定の品川産業支援交流センターを、起業仲間等との交流や起業した企業のPR等の場所として使えないのか。

### 地域振興事業部長

1 品川の産業振興に起業を促進する意義は大きいと考え、支援を更に充実する。2 ファイナリストの起業率は83%だ。3 個人事業者として小規模からスタートする傾向がある。4 無理なく起業まで到達できるように、段階を踏んだメニューを実施している。5 併設する認証保育所と協定し、一時預

### 認知症高齢者サポーターについて

1 ひとり暮らしの高齢者の占める割合と傾向は。2 認知症サポーターについて7現在何人いるのか。3 区職員への啓発は。4 認知症による徘徊



須藤 安通 議員(自民)

## 今後の品川と濱野区政3期目について

を早期に見出すため、高齢者見守りネットワーク事業を活用し、認知症サポーターを養成しては。4 認知症サポーターを推進するための、今後の取り組みは。健康福祉事業部長 12月1日現在、65歳以上の約37%はひとり暮らし高齢者で、その約7割が女性だ。2 区で実施した認知症サポーター養成講座の受講者は、延べ8千36人だ。3 24年に区職員138名が講座を受講した。今後、更に啓発に努めていく。4 講座受講の呼びかけを行っていく。5 活動促進のための実践的な研修を実施するなど、自主的な活動が地域に拡大するよう取り組んでいく。

### 空き家対策について

1 放置された空き家が社会問題となっているが、区の現状は。2 空き家等適正管理等に関する条例にある「指導・助言」と「警告」の違いは。3 空き家の所有者には区外在住の方も多いと考えられるが、どのように説明するのか。4 空き家等実態調査の結果も踏まえた、今後の活用策は。区長 10月末の速報値は1千338戸だ。総務省の調査でも増加傾向にある。2 所有者に任意の協力を求めるのが指導・助言で、適正な管理の実現を強く促すのが警告だ。3 区内外を問わず、条例や活用できる制度を案内するパンフレットを所有者へ送付し、啓発する。4 空き家の状態も把握した上で、個々の空き家に対する要望と所有者をつなげる手法を検討していく。

1 社会経済状況の見直しや将来的な時代認識を踏まえ、これからの品川のまちについて、どのようなイメージを持っているのか。2 3期目の濱野区政のトップマネジメントにおいて、どのようにリーダーシップを発揮するのか。3 それぞれの世代に、子育てのつながりやボランティア等の多様な社会参加のチャンネルが開かれている。このつながりを地域と連携させることが地域の人的なネットワークを

とともにチャレンジ精神を持って取り組んでいく。このような取り組みを支えるために引き続き行財政改革を推進し健全財政を維持していく。3 多様化している区民活動と、町会・自治会等の地縁的な活動との連携は、ますます進展する高齢化や複雑化する地域課題の解決に向け、極めて重要な点と認識している。4 執行体制を見直し、組織条例改正案を本定例会に提案予定だ。人材育成も大切だと考える。

### 今後の情報政策の課題について

1 2016年1月に通称マイナンバーの利用が始まる。介護、医療、福祉のネットワーク化など、これから区政が独自に検討するサービス分野があるのかを含め、今後のマイナンバー制度への対応は。2 今後、オープンデータ、ビッグデータを活用した情報政策を、どのように検討していくのか。

### 健康福祉事業部長

1 健康寿命の高低には多種多様な要因があり、その中で人々のきずなや信頼感が健康長寿に大きくプラスになることがわかってきている。世代間や世代を超えた連携と、地域との仕組みづくりが必要だ。2 2014年度の全国体力テストの結果を受けて、子どもたちの体力向上にどのように取り組むのか。3 口腔ケアの大切さを広く区民に周知し、健診制度の充実拡大を更に図ることが必要だと考えるが、所見を。4 国際的にも健康都市連合がつけられ、日本でも多くの自治体が健康都市宣言し、日本支部として登録している。東京オリンピック・パラリンピックが開催されるこの時期に、区も健康都市宣言をして、国際的にも交流を始めるべきでは。

### 健康寿命について

1 健康寿命の高低には多種